新 刊 Book Reviews

大川智史・林 将之（著）：**ネイチャーガイド琉球の樹木 奄美・沖縄〜八重山の亜熱帯植物図鑑** A5. 488 pp. 2016. 文一総合出版 . ￥5500＋税. ISBN 978-4-8299-8402-4.

本書は表題にもある通り，奄美諸島以南の琉球列島に自生または植栽される木本植物の葉（ソウシジュは葉状枝）のスキャン画像と生態写真，部分拡大写真を駆使して，この地域の樹木の同定を容易にすると共に，個々の種に関する最新の情報をわかりやすく記述している．解説の多くは現地における観察に基づいており，教えられることも多い．木本植物（自生は変種以上で510分類群，植栽151分類群）だけではなく，ショウガ科などの大形の草本19種も採録されている．著者の1人林 将之氏は，既に葉のスキャン画像の比較による手法で山と渓谷社から『樹木の葉』を出版していて好評を博しており（本誌89巻4号で金井弘夫氏，邑田 仁氏によって紹介済み），本書でも基本的にその形式を踏襲している．具体的には，科をAPGIII体系（裸子植物は系統関係に基づく体系，シダ植物はヘゴ科のみ採録）で配列し，その下で属や種を検索に便利なように並べている（科の中の属の配列は一定していない）．その前にpp. 14–20につる性か直立性か，葉の配列や切れ込み形などに着目して群を大別し，各群の中でさらにサイズや脈の特徴に基づいて葉の画像を並べて示している．ただ，琉球の樹木のかなりの割合を占め，本土の者がみんな区別に悩まされる「不分裂，互生，全縁」の葉をもつものがpp. 16–17の2ページにわたり107枚も並んでいてしかもこれで全部ではなく，サイズが小さすぎることもあってなかなか絞り込めない．同形式の『樹木の葉』では，対応する項目は常緑性82枚，落葉性57枚が計5ページに並んでおり，この位の余裕がほしかった所である．それが無理でも，葉の全体の形や有毛性などの特徴に基づいて，もう少し絞り込めるような工夫がなされればより使い勝手がよくなったのではないかと考える．

（米倉浩司 K. YONEKURA）

□森田千里：**北西インドヒマラヤの高山植物ハンドブック** Chisato MORITA: A Handbook of Alpine Plants in the Himalayan Region of Northwest India. A5．272 pp. 2016. 私費出版．ISBN no number.

本書は西ヒマラヤの高山植物図鑑である．同書の前書きによると，「通って45年，小屋を作り住んで30年．想い出のすべてがこの図鑑に詰まっています」とある．つまり，インド，ヒマチャル・プラデシュ州マナリで「ヒマラヤン・ハワー・アシュラム（風来坊山荘）」を30年の長きに渡って営んできた森田千里・邦子氏ご夫妻による，高山植物への関わりの集大成とでも言えるものだろう．Kullu，Spiti，Lahaul (Lahul) など，評者にとっては標本ラベル上でしか見たことのないような土地で撮影された写真が数多く掲載されている．

181–184ページには青いケシの1種 *Meconopsis aculeata* の写真が並んでいる．西ヒマラヤの青いケシは *M. aculeata* 1種のみとされるが，花弁は淡青色〜淡紅紫色あるいは淡青紫色まで変異に富んでいることが分かる．もしかすると，*M. aculeata* 以外にもう1種あるのかもしれない．写真だけでの同定は難しいが，16ページ上段は *Saussurea denticulata*．同じく中段は *Alfredia nivea*，26ページの上半部は *Leontopodium jacotianum* であろう．

ヒマラヤ全域をカバーした日本語の植物図鑑としては，吉田外司夫氏の大著，『ヒマラヤ植物大図鑑』（山と渓谷社，2005）がある．が，吉田氏の図鑑は大きくかつ重く，トレッキングでの携行には適していない．その点，ハンディな本書は北西インド・ヒマラヤの高山帯で植物を観察する時に有用であろう．入手に関する問い合わせは，338-0003 埼玉県さいたま市本町東7丁目2-1-1016 森田千里氏まで．（門田裕一 Y. KADOTA）